

JN2鎌野/蔭山組、『実感が湧かない!』全日本初優勝



レグ1の4連続ベストで大きく稼いだ鎌野賢志/蔭山恵組が、レグ2もそのスピードを維持して快勝。全日本初勝利を飾った。

グラベル5連戦中の4戦目、「MSCCラリー in いわき 2018」が福島県いわき市周辺で開催された。

MSCCの全日本ラリーは2016年以降の復活で、それまで棚倉町に置かれていたHQは、いわき市小名浜地区に移動。周辺は大型商業施設やアクアマリンふくしまが隣接する観光地で、集客にはもって来いの好立地となっていた。

走るステージは鹿角平や東野牧野、西根、鶴石山に長草萱山とおなじみのエリアで、HQ直近にはターマックの川上、そして570mのギャラリーステージ、三崎公園が追加された。

残暑厳しい8月下旬は、突発的な降雨や暑さ対策も要求される過酷なラリーとなった。

今シーズン JN2は、開幕戦のスノー嬌恋は

不成立となったものの、第2戦唐津と第3戦丹後では明治慎太郎選手と鈴木尚選手がそれぞれ勝利して、今季をリードするかと思われた。

しかし、第4戦久万高原からグラベル連戦が始まると、今年からステップアップしてきたTGRラリーチャレンジ出身の長崎雅志/秋田典昭組が台頭。第4戦と第6戦カムイを勝利して、シリーズ首位で第7戦いわきに挑んできた。

滑りやすいターマックの「川上」ステージで幕を開けた第7戦は、長崎/秋田組がSS1をトップで上がる。しかし、ロンググラベルのSS2で、後続を10秒以上引き離すベストタイムをマークしたのは鎌野賢志/蔭山恵組だった。

その後もSS3では約7秒差、SS4とSS5の三崎公園でもベスト連取、レグ1最終SS9で

も僅差ながらトップタイムをマーク。後続に約30秒の貯金を築いてレグ1首位で折り返した。

サービスに戻ってきた鎌野選手は「いやー、暑いので体力的に厳しいです。路面がヌルヌルなので後輪駆動は疲れますから(笑)。2ループ目の路面はそんなに荒れてないですし、もう少しイケそうな感触がありますが、ペースは今くらいでキープかなと思ってます」と慎重だ。

開けてレグ2。第5戦モントレーで涙の全日本初勝利を飾った加納武彦/横手聡志組と、明治慎太郎/古川智崇組がSS9とSS10でベストを分け合い反撃を開始する。しかし、SS12で加納/横手組がリタイア。明治/古川組も2本のベストで応戦するも、時すでに遅し……。

最終SS14でレグ2で3回目のベストタイム



JN2 / 1. 鎌野賢志/蔭山恵組が嬉しい全日本初優勝。「練習の成果で、土曜の午前中からちゃんと走れたのが良かったです」とは鎌野選手。2. 長崎雅志/秋田典昭組が2位。「鎌野選手に、かなりブチぎられてしまったので……」とは長崎選手。3. 序盤で大きく離れた明治慎太郎/古川智崇組。レグ2は連続ベストを獲得したものの3位に留まる。明治選手は「順調ではあったんですが、クルマと一体になれてなくて。動かし方を掴みきれてないんです。色々試しながら走っているんですけど……」と遠くを見つめる。

をマークした鎌野/蔭山組が、2位長崎/秋田組に大差で優勝。全日本初勝利をモノにした。

「86で福島を走るのは初めてでしたし、初日のマージンもあったので、leg2はオトナな感じで、抑え目に走りました。全日本初優勝の実感はありません(笑)。次のラリー北海道の準備もあるし、月末で仕事が溜まっているので、もう、現実に戻されてます(笑)。

でも、『やればできる』という自信には繋が

りました。普段はあまり乗らないんですが、今回はオートパーク今庄の練習会や青森の東日本選手権で練習して、それがかなり効いたんです。

ウチの竹平(素信氏)から事前準備の大切さを昔から指摘されていたんですけど、10年目にして、ようやくその意味を実感できました(笑)。

微妙な笑顔で答えてくれた鎌野選手。この勝利でシリーズ3位にジャンプアップした。

今大会では、開催中止となったJAF東日本ラ

リー選手権第4戦が併催されることになり、BC4では永由元人/安江照明組が上原利宏/佐瀬石野組をleg2で逆転。今季3勝目を挙げた。

「途中で雷雨があって待たされたんですが、実は、雨が降ったおかげで舗装が良くなって、1回目に比べてグリップもしたので助かりました。でも、今日は上原(利宏)選手が速かった。最終的には逆転でしたけど、今回は勝てた気がしませんね(笑)」とは永由選手。



JN4 / 9.上原淳/漆戸あゆみ組との熾烈なバトルを制して久々の優勝を飾ったのは関根正人/草加浩平組。「いやー3年ぶり(笑)。カムイでは勝てなかったので、テストを繰り返してクルマを見直しました。アシヤ駆動系を煮詰めたのが当たってきた感じがします。ご協力いただいた皆さんには感謝です」とは関根選手。10.5本のベストを奪いながらも届かず2位の上原/漆戸組。11.乱高



JN3 / 16.8ステージベストの天野智之/井上裕紀子組が、岡田孝一/石田一輝組を制して優勝。「今回はショートステージが課題でした。短いところはだいたい岡田さんが速いんですよ。自分がスロースターターなのもありますが、ダートラの傾向を見ると、デミオはショートが得意なのかもしれませんね。負け方も例年と一緒になので、そこが何とも悔しいです(笑)」とは天野選手。17.復活の狼煙を上げる岡田/石田組は2位ながらサミー賞をゲット。18.SS3でベスト奪取の藤田幸弘/藤田彩子組が3位。19.4位は本名修也/湊比呂美組。JN1 / 20.古川寛/廣田幸子組のleg1離脱でトップ独走となった小川剛/藤田めぐみ組が優勝。「途中から2連が抜けちゃう状態であってました。貯金を崩しながら、だましだまし走りました。でも、ポイントが1点差で並んだので、次のラリー北海道が勝負ですね」とは小川選手。21.GKフィットの三吉和義/小林剛組が2位。22.久々に復帰した直井健/厚地保幸組が3位。23.スワフトスポーツで挑んだ内藤学武/小藤桂一組が4位に。

下が激しかった山本悠太/北川紗衣組が2戦連続の3位。12.3度のベストながら4位に終わった高橋悟志/筑作裕子組。JN5 / 13.序盤から攻めた眞貝知志/安藤裕一組がJN5で初勝利。「一騎打ちだと思っていた川名選手が朝に走れなくなったことを聞いて、leg2の気持ちの切り替えが難しかったです。このラリーの経験も少ないので、無理して勝ちに行くよりは、クルマを壊さずコースアウトしないように切り替えました。久しぶりですよ、優勝は(笑)。本当に嬉しいです」とは眞貝選手。14.小濱勇希/馬場雄一組は2位。15.またも3位を獲得したのは鷹野健太郎/松本優一組。



JN1 / 20.古川寛/廣田幸子組のleg1離脱でトップ独走となった小川剛/藤田めぐみ組が優勝。「途中から2連が抜けちゃう状態であってました。貯金を崩しながら、だましだまし走りました。でも、ポイントが1点差で並んだので、次のラリー北海道が勝負ですね」とは小川選手。21.GKフィットの三吉和義/小林剛組が2位。22.久々に復帰した直井健/厚地保幸組が3位。23.スワフトスポーツで挑んだ内藤学武/小藤桂一組が4位に。



併催された東日本選手権BC4ウイナーは永由元人/安江照明組。



BC3の優勝は、6ステージでベスト獲得の高野啓嗣/福島成郎組。



BC2は伊東太志/山田一成組が僅差のバトルを生き残って優勝。